

経営情報研究科修士課程 学位審査基準および学位授与方針（学習成果）の対応表

- (DP1) 情報技術、企業、ビジネス、社会における幅広い知識と専門領域における深い学識を備えている者。
 (DP2) データにもとづいて、論理的で柔軟な思考・判断ができ、コミュニケーションをとることができる者。
 (DP3) 現代社会の諸課題に強い関心を持ち、自らが獲得した知識・技能・思考・態度等を総合的に活用すること
 とで、自らが立てた新たな課題を解決することができる者

(修士論文)

	DP1	DP2	DP3
(1) 提出要件 ① 修士論文は原則として 40,000 字程度（図表を含む。）とする。ただし、研究分野によって、この条件は弾力的に運用する。 ② 2,000 字程度の概要を添付すること。 ③ 修士論文提出までに、中間報告会において報告していること。	(必須)		
(2) 論文の審査基準 ① テーマ 研究テーマの設定に関し、取り上げた動機、意義付けが明確になっていること。 ② 学術的貢献 学術論文としての形式要件を備え、独創性を有する理論が展開されていること。 ③ 方法 研究テーマの遂行に際し十分に調査し、検証した上での確かな分析・考察がなされていること。 ④ 記述 論文の記述において、本文、図表、引用、参考文献、用語の利用等が適切で、首尾一貫した論理構成になっていること。 ⑤ 結果 研究の結果が当初の意図どおりに達成され、当該研究領域において独自性を有するものとなっていること。	●		●
(3) 最終試験の審査基準 最終試験は、発表および口頭試問により行う。 ア. 発表 ① 資料 発表のための資料が適切に準備されていること。 ② 方法 発表のためのツール等の利用が適切で、発表態度も妥当であること。	●	●	
	●	●	

③ 内容 研究テーマが適切に、分かり易く説明されていること。	●	●	
イ. 口頭試問			
① 質疑応答 質問に対して的確に回答できていること。	●	●	●

(課題研究レポート)

	DP1	DP2	DP3
(4) 提出要件 ① 課題研究レポートは 20,000 字程度 (図表を含む。) とする。ただし、研究分野によって、この条件は弾力的に運用する。 ② 課題研究レポート提出までに、中間報告会において報告していること。	(必須)		
(5) 課題研究レポートの審査基準 ① テーマ 研究テーマの設定に関し、取り上げた動機、意義付けが明確になっていること。 ② 実務的課題への貢献 実務上の視点から問題提起がなされ、実務的な課題の解決につながっていること。 ③ 方法 研究テーマの遂行に際し十分に調査し、検証した上での確かな分析・考察がなされていること。 ④ 記述 課題研究レポートの記述において、本文、図表、引用、参考文献、用語の利用等が適切で、首尾一貫した論理構成になっていること。 ⑤ 結果 研究の結果が当初の意図どおりに達成され、当該研究領域において独自性を有するものとなっていること。	●		●
(6) 最終試験の審査基準 最終試験は、発表および口頭試問により行う。 ア. 発表 ① 資料 発表のための資料が適切に準備されていること。 ② 方法 発表のためのツール等の利用が適切で、発表態度も妥当であること。 ③ 内容 研究テーマが適切に、分かり易く説明されていること。	●	●	●

イ．口頭試問 ① 質疑応答 質問に対して的確に応答できていること。	●	●	●
---	---	---	---

- ・ 経営情報研究科修士学位論文の審査および最終試験に関する内規

経営情報研究科修士学位論文の審査および最終試験に関する内規

2014 年 12 月 12 日制定

2015 年 11 月 27 日改正

(目的)

第1条 この内規は、経営情報研究科における修士学位論文に関する提出要件と審査基準を定めることを目的とする。

(修士論文の審査基準)

第2条 大阪経済大学大学院学則（以下、大学院学則という。）第9条に定める修士論文は大学院学則および学位規程に定めるもののほか、以下の提出要件と審査基準を満たさなければならない。

(1) 提出要件

① 修士論文は原則として 40,000 字程度（図表を含む。）とする。ただし、研究分野によって、この条件は弾力的に運用する。

② 2,000 字程度の概要を添付すること。

③ 修士論文提出までに、中間報告会において報告していること。

(2) 論文の審査基準

① テーマ

研究テーマの設定に関し、取り上げた動機、意義付けが明確になっていること。

② 学術的貢献

学術論文としての形式要件を備え、独創性を有する理論が展開されていること。

③ 方法

研究テーマの遂行に際し十分に調査し、検証した上での的確な分析・考察がなされていること。

④ 記述

論文の記述において、本文、図表、引用、参考文献、用語の利用等が適切で、首尾一貫した論理構成になっていること。

⑤ 結果

研究の結果が当初の意図どおりに達成され、当該研究領域において独自性を有するものとなっていること。

(3) 最終試験の審査基準

最終試験は、発表および口頭試問により行う。

ア. 発表

① 資料

発表のための資料が適切に準備されていること。

② 方法

発表のためのツール等の利用が適切で、発表態度も妥当であること。

③ 内容

研究テーマが適切に、分かり易く説明されていること。

イ．口頭試問

① 質疑応答

質問に対して的確に応答できていること。

(特定の課題についての研究成果の審査基準)

第3条 大学院学則第9条第2項に定める特定の課題についての研究の成果（以下、課題研究レポートという。）は、大学院学則および学位規程に定めるもののほか、以下の提出要件と審査基準を満たさなければならない。

(1) 提出要件

① 課題研究レポートは 20,000 字程度（図表を含む。）とする。ただし、研究分野によって、この条件は弾力的に運用する。

② 課題研究レポート提出までに、中間報告会において報告していること。

(2) 課題研究レポートの審査基準

① テーマ

研究テーマの設定に関し、取り上げた動機、意義付けが明確になっていること。

② 実務的課題への貢献

実務上の視点から問題提起がなされ、実務的な課題の解決につながっていること。

③ 方法

研究テーマの遂行に際し十分に調査し、検証した上での的確な分析・考察がなされていること。

④ 記述

課題研究レポートの記述において、本文、図表、引用、参考文献、用語の利用等が適切で、首尾一貫した論理構成になっていること。

⑤ 結果

研究の結果が当初の意図どおりに達成され、当該研究領域において独自性を有するものとなっていること。

(3) 最終試験の審査基準

最終試験は、発表および口頭試問により行う。

ア．発表

① 資料

発表のための資料が適切に準備されていること。

② 方法

発表のためのツール等の利用が適切で、発表態度も妥当であること。

③ 内容

研究テーマが適切に、分かり易く説明されていること。

イ．口頭試問

① 質疑応答

質問に対して的確に応答できていること。

(改廃)

第4条 この内規の改廃は、経営情報研究科委員会の合意に基づいて経営情報研究科長が行う。

附則

- 1 この内規は、2014 月 12 月 12 日に制定し、2015 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この内規は、2015 年 11 月 27 日に改正し、2015 年 4 月 1 日に遡って施行する。